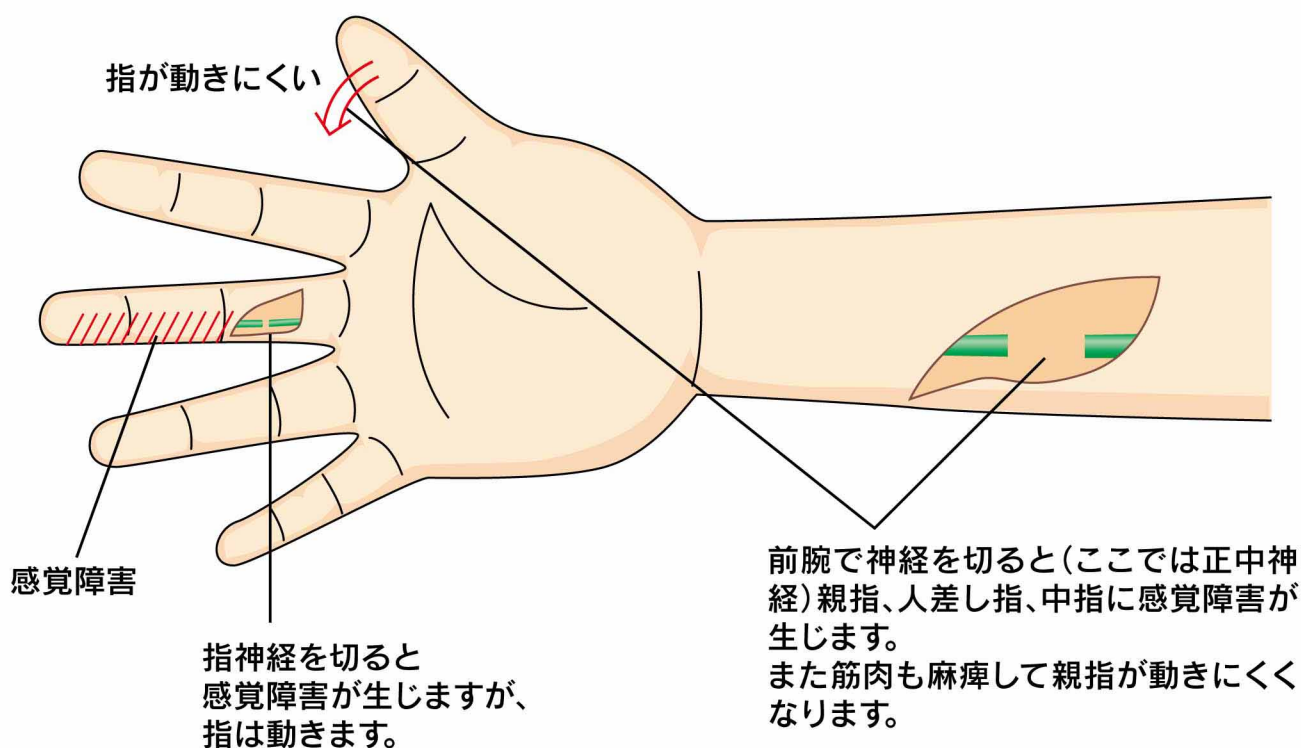


34

手の神経損傷

● 症状 ●

前腕、手、指に切り傷を受けて末梢神経が損傷した場合、手指の感覚障害、運動障害が生じます。ケガした部位より末端（指先方向）が麻痺するので、ケガが肘に近いほど障害の程度が大きくなります。指の神経損傷では指は動きますが、前腕での神経損傷では指も動かなくなることがあります。



● 原因・病態 ●

包丁やナイフによる切り傷

事故などで前腕を骨折して同時に神経も損傷

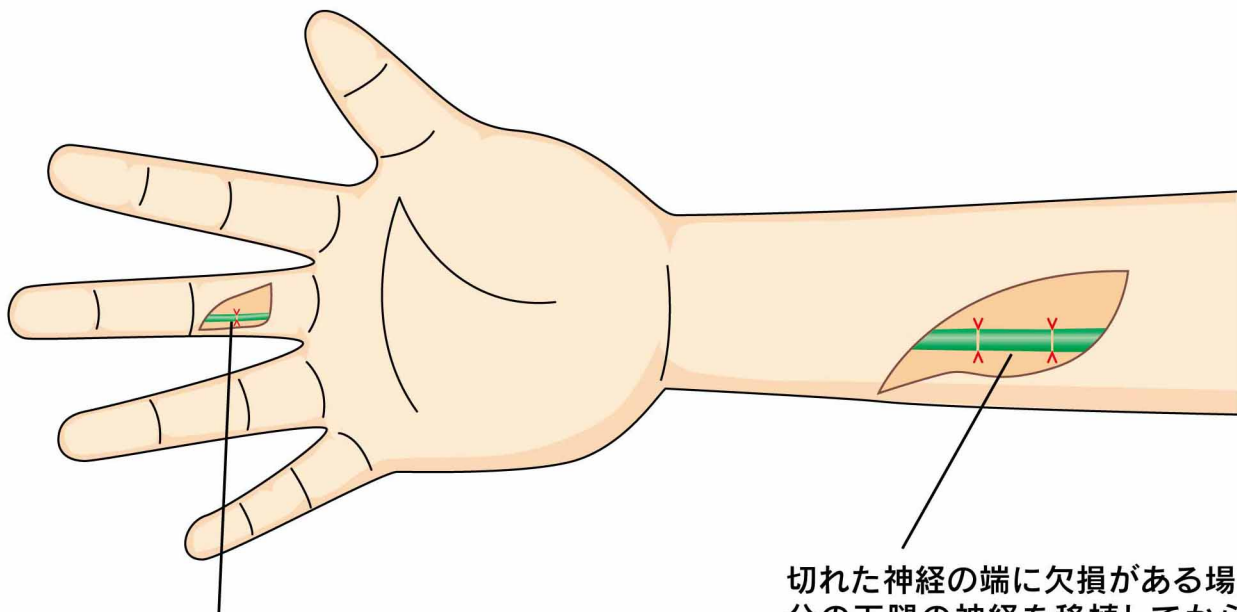
仕事中に機械に手を巻き込み、皮膚、筋肉、神経を同時に損傷

● 診断 ●

手指に感覚障害があれば神経は損傷しています。神経と同時に、腱や血管も傷ついていることがあり注意深い診察が必要となります。診断と治療は簡単ではないことも多く、手外科での診察が望ましい。エコーやMRIの検査を行うこともあります。

● 治療 ●

- ①切り傷による神経の断裂：顕微鏡を用いて神経を縫合します(神経縫合術)。神経縫合は縫合部位から1日1mmの速度で神経が再生するため指先から10cm離れた部位のケガでは回復に約100日を要します。手術後は副子などで手や指を約3週間固定します。
- ②大きなケガで神経の断端が損傷している場合：神経の端と端とを縫合ができないため、神経移植(通常は下腿から採取)や人工神経を用いて神経の欠損部を橋渡ししてから顕微鏡で縫合します(神経移植術)。
- ③機械の巻き込みなどで挫滅が強い場合：神経の修復ができないことがあり、この場合は別の腱を移行させて手の機能を補う方法があります(腱移行術)。



顕微鏡を用いて細い糸で神経を縫合します。

切れた神経の端に欠損がある場合、自分の下腿の神経を移植してから縫合します。人工神経を用いることもあります。